

第4回松本市交通政策検討委員会の振り返り

1. 次期総合交通戦略について

タクシーの位置づけについて

【三澤委員】

- ・タクシーの交通手段としての位置づけは、公共交通の一部として考えらえるか。

【事務局】

- ・公共交通の一部と考えている。一方で、バスや鉄道とは特性が異なるため、**次期総合交通戦略の策定の中で検討**していく。

公共交通や自転車を優先するエリアの想定について

【松島委員】

- ・公共交通や自転車を優先するエリアはどの程度の範囲を想定するか。すべての地域というのは難しい。

【事務局】

- ・立地適正化計画の誘導区域が1つの目安として考えられるが、**エリアごとのモビリティ水準や範囲は、戦略策定の中で検討**していく。

運転免許保有率について

【大岩委員】

- ・全国の運転免許保有者数で若い層の自動車離れが進んでいる傾向がわかるが、松本市のデータを確認できるとよい。

【高瀬会長】

- ・上記データの人口は国勢調査ベース、運転免許保有率は住民票をベースとしている。大学生など、住民票を移さないケースがあるため、100%を超える場合があり、数値の取扱いは注意が必要である。

【事務局】

- ・松本市は、H20松本都市圏PT調査の他、R1松本市PT調査も実施している。運転免許保有率に限らず、**他のデータ等も活用**しながら実態を把握、分析したい。

2. 令和7年度に実施する調査について

観光の動向調査について

【益山副会長】

- ・観光客、特にインバウンドは自動車の移動が増えていると感じる。観光客の動向調査を加えてはどうか。

【大川委員】

- ・観光客の動向について、松本市は松本城と上高地が主要な観光地であるため、そこで調査することや、ホテルの滞在者へターゲットを広げることが考えられるのでは。

【事務局】

- ・観光客は、観光部局が **R6 に実施した観光動向調査** を活用する予定。

【資料2】にて紹介

意向調査について

【近藤委員】

- ・公共交通を利用しない理由など、意識調査の項目を設けてはどうか。

【二條委員（代理：大池副部長）】

- ・以前はバスを使っていたが、現在は使わなくなった方を対象に、その要因を調査するものがあるといい。バスが不便になった、生活の形が変わった等、様々な要因が考えられ、戦略策定には、そういったニーズを反映する必要があると考える。

次期総合交通戦略は、**市の交通に関する全体計画**と位置付けており、令和7年度は市全体の現状の交通実態を把握する調査として、ミニPT調査等の実施を想定している。個別の交通手段の意向調査に関しては、各計画の中で今後取り扱っていく方針としたい。

3. ミニPT調査（松本市パーソントリップ調査）について

抽出率について

【益山副会長】

- ・PT調査のゾーン分けの考え方や、ゾーンごとに抽出率を分けて設定する想定はあるか。

【事務局】

- ・今回の調査は、市内14地区の自動車分担率の把握などを想定した設計をしており、市の交通実態の概況を把握するために**抽出率は市内で一定**とする予定である。

調査票の返送先について

【新村委員】

- ・PT調査の調査票の返送先が都内の調査会社であることで、回答者の不安感を生みかねない。

【事務局】

- ・一般的な手法として、調査票に市長の写真やサインを入れるなど、**市の調査であることがわかるような工夫**を行う予定である。加えて、6月の調査実施前に、様々な手段で広報を行い、回答者の不安感を除きたい。

【別添資料】に調査物件案を紹介。

以上。